直島諸島採集の旧石器時代から縄文時代草創期の尖頭器

菅　　紀浩

―論文要旨―

瀬戸内海東部に位置する直島諸島では，旧石器時代から縄文時代の遺跡について，井島などの一部を除き，発掘調査された遺跡は少なく，表面採集によって得られた資料も未公表のものが多い。特に，縄文時代草創期に帰属すると考えられる尖頭器については，図化され公表されたものは管見の限りない。

したがって本報告では，直島諸島の直島，荒神島，井島において昭和から平成にかけて採集された後期旧石器時代から縄文時代草創期に帰属すると考えられる尖頭器を報告した。この報告は，直島諸島のみならず，瀬戸内周辺域における当該時期の遺跡分布を検討するうえで基礎資料の一つとなると考える。

キーワード：香川県，直島諸島，島嶼部，後期旧石器，縄文時代草創期，槍先形尖頭器，有茎尖頭器

１．はじめに

本稿で報告する資料は，直島諸島の内，香川県香川郡直島町に属する直島・荒神島・井島[1]の３島より採集された。荒神島については，玉野市文化財保護委員を務められた（故）名合照亀，（故）堀内恒彦両氏により1955年頃から1965年頃にかけて個別に採集された資料と，1995年以降，岡山県在住の考古学研究者である小野伸，竹内信三両氏により個別に採集された資料と2012年以降に筆者が採集した資料を対象とする。直島については2011年に竹内信三氏が採集した資料と井島については2013年以降に筆者が採集した資料である。

直島諸島においては，これまで後期旧石器時代から縄文時代の遺跡が早い段階から発掘され，井島遺跡をはじめとする学史上著名な遺跡が知られている（鎌木1957[2]；間壁1981）。

しかし，直島諸島における当該期の尖頭器についての報告はそれほど多くなく，複数の資料が確認できるに至った。確認した遺物はいずれも当該期の遺跡分布を検討するうえで貴重な資料と考え，採集者の小野　伸，竹内信三両氏から資料紹介の快諾が得られた。また，名合照亀，堀内恒彦両氏の採集資料も現在の所蔵先である玉野市教育委員会から快諾を得られたので，資料を図化し報告する。

２．遺跡の位置と環境

直島諸島は瀬戸内海の東部に位置し，距離にして東西約6.8km，南北約8.7kmの範囲内に27の島嶼から構成されており，本稿で報告する直島・荒神島・井島もこの中に含まれる（第１図）。

本稿で報告する直島・荒神島・井島（鞍掛鼻）は，行政区分上，香川県に属すが，岡山県玉野市とは指呼の距離で荒神島から最短距離で約1.2kmと近い。それぞれ最短距離で荒神島から直島は約250m，発掘調査が行われた井島遺跡（鎌木1957）は，直島から北東約３kmに位置する。報告する３島周辺には，旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く知られており，岡山県玉野市向日比遺跡，高辺山遺跡，田井１号台地遺跡，長崎鼻遺跡（間壁1970），香川県葛島遺跡（松本1974；古瀬ほか2003），寺島遺跡（小野・白石2003；熊谷ほか2008），重石ノ鼻遺跡（鎌木・高橋1965；三枝2014），キヘエ北東丘陵部遺跡，京ノ上臈散布地[3]，局島遺跡，六郎島遺跡（小野・白石2003），井島大浦台地（間壁1981）などで石器や土器が出土している。

直島諸島の主島である直島は，東西約2.4km，南北約4.9kmと直島諸島の中では最も広く，北に寺島，南には五色台，北東方向に井島，西に荒神島を望む。最高所は島のほぼ中央に位置する地蔵山（標高約123m）である。

荒神島は島の西側中央に最高所（標高約90m）をもち，東西約1.1km，南北約0.8km，周囲約４kmの無人島である。荒神島を対岸の岡山県玉野市や船上から望むと，樹木が少なく島全体が禿山となっている。これは荒神島の東に位置する直島で操業している精錬所の煙害の影響から始まった。その後，煙害対策がなされ植生が回復し始めた矢先に起こった山火事（1998年）により現在見られるような状態になった。近年では，NPO法人などにより植樹がなされ，島の北面から南にかけて樹木が復活しつつあるものの，それ以上に表土の流失が著しく，良好に残っていたと推定される遺物包含層も同様に流失し，いくつかの遺跡は消失したものと推察される。また荒神島を考古学的に著名にした５世紀末から６世紀初頭を中心に古代まで継続する祭祀遺跡「荒神島遺跡」（松本1979；近藤1980；古瀬ほか2003；岡嶋2012）は，島の北面，中央の谷に位置するが，風雨や台風，波による浸食により壊滅状態にある。

井島は東西約1.3km，南北約3.1kmで，島の北側に県境が引かれており，行政上北側が岡山県玉野市，南側が香川県香川郡直島町に属す。最高所は島の中央，県境よりやや南側に（標高156.7m）位置する。岡山県側は石島，香川県側が井島と表記され，岡山県側の石島には人が居住している。

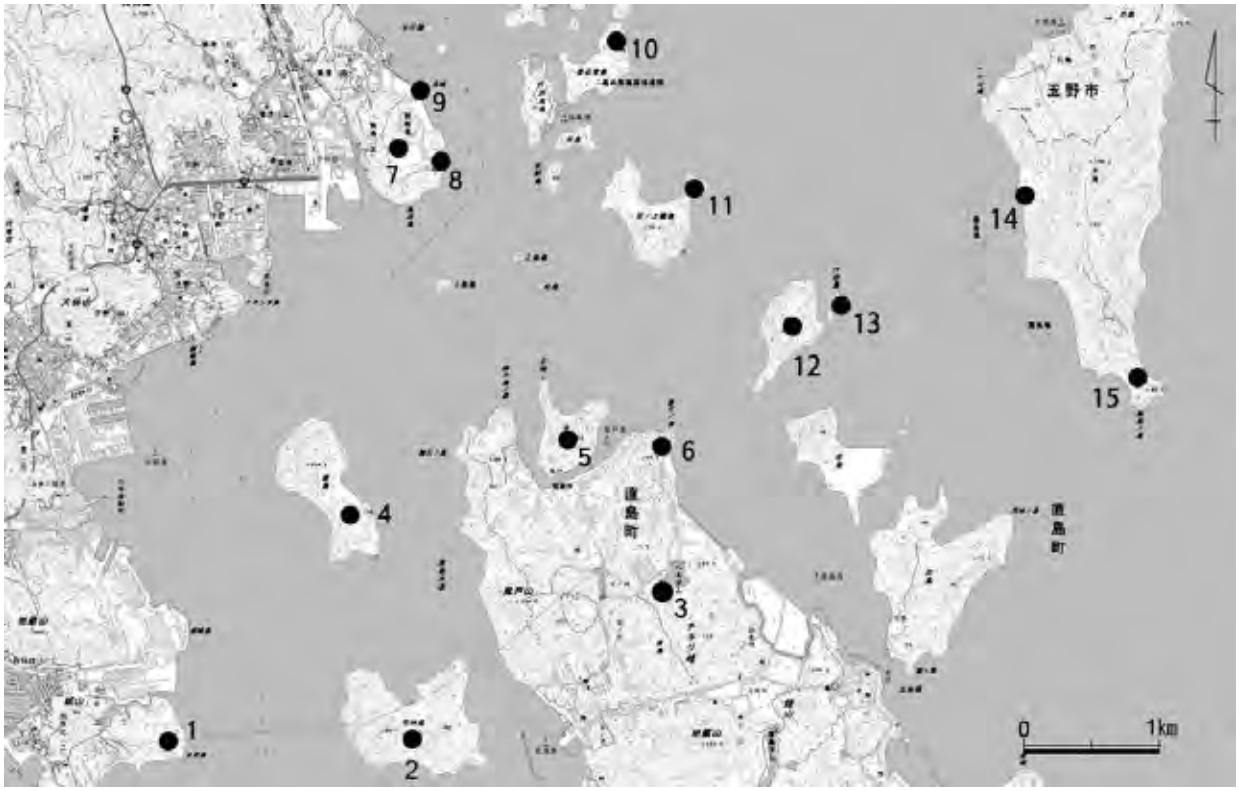
井島の南端には考古学的に著名な井島遺跡（鎌木1957）が所在する。遺跡が所在する鞍掛鼻と呼ばれる南に突出した岬には２地点の遺跡が知られる（鎌木1957）。第２号地点は南に突き出した岬の先端部で，調査が実施された第１号地点は岬の付け根部にあたる。また，島のほぼ中央西側に大浦台地と呼ばれる海浜に突出した舌状台地があり，縄文早期を主体とする小規模な貝塚が報告されている（間壁1981）。

井島は近年まで樹木の繁茂で踏査が困難であったが，2011年に発生した山火事により島の約８割を焼失した。前述した荒神島の状態を見てきた筆者は，井島も同じ状態になることを危惧して現状確認のため定期的な踏査で記録を残してきたが，火事から数年は台風や風雨，2018年に発生した西日本豪雨などの影響もあり，表土の流失が顕著となった。

３．採集地点と資料

１．直島ヘキダム地点

石器が採集された直島ヘキダム地点[4]は，直島の最高所がある地蔵山（標高約123m）の北に位置し，ヘキダムと呼ばれるダム周辺に所在する。石器はダムの南端斜面，標高約17m地点で採集された（第２図）。この南



第１図　直島諸島周辺の旧石器～縄文時代の遺跡分布

（国土地理院　電子地形図25000を一部改変使用）

（1　向日比遺跡　2　荒神島遺跡群　3　直島ヘキダム地点　4　葛島遺跡　5　寺島遺跡　6　重石ノ鼻遺跡　7　高辺山遺跡　8　田井１号台地遺跡　9　長崎鼻遺跡　10　キヘエ北東丘陵部遺跡　11　京ノ上臈散布地　12　局島遺跡　13　六郎島遺跡　14　井島大浦台地　15　井島遺跡）

側斜面は，2006年にヤマザクラやアラカシなど２万本の植樹が行われており（直島町2006），その際に出土した可能性がある。またその付近からは，縄文期と考えられる石鏃なども採集されている。

石器は竹内信三氏により採集され，先端部を若干欠損するが，ほぼ完形品で，長さ4.7cm，幅1.6cm，厚さ0.5cm，重さ3.89gを測る，安山岩製の有茎尖頭器である。腹面に素材面を大きく残す半両面加工で，基部を意識して作出している（第３図）。

２．荒神島遺跡群

石器は島全体に散布が確認できるが，本稿ではこれまで報告されてきた地点（岡嶋ほか2003；大智ほか2010）を参考に，分布地点の区分を行った。また，これまで報告されていない地点についても石器の散布がある程度纏まって確認できた地点は，新たに地点を追加し，区分した（第４図）。本稿の地点は，小野　伸氏，筆者の現地調査の情報をもとにし，既存報告の地点についても石器の散布を追認している。

本報告では石器の散布が確認できる21地点の内，尖頭器が採集された７地点を各地点の概要とともに，採集資料についても述べる。また玉野市教育委員会所蔵の名合照亀，堀内恒彦両氏の採集資料については採集地点の記録が失われていることから，遺跡単位として扱う。

（１）第１地点

島の北西，送電鉄塔がある頂上より北に下った鞍部に位置する。標高は約40mで，石器は尾根上と西側斜面の広範囲で確認できた。尾根から西側斜面にかけてはいくつもの侵食溝がはしり，植生が失われ，表土の流失も著しい地点である。

・有茎尖頭器（第７図４・５）

４は小野　伸氏により尾根上で採集された。長さ4.3cm，幅2.7cm，厚さ0.6cm，重さ6.5gを測る，安山岩製の有茎尖頭器である。完形品で石器表面には少し焦げたあとが残されており，近年の火事により火受けがあったものと思われる。

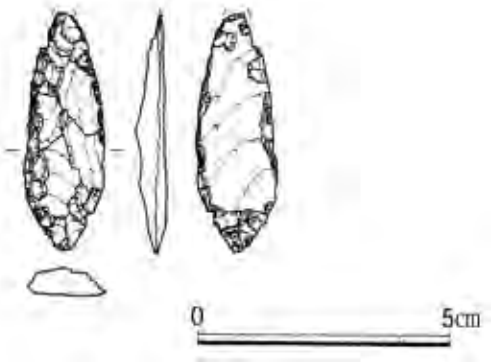
本資料は計測値が既に報告されているが（長井2000），この度，小野　伸氏のご好意により図化できたので改めて報告させていただいた。

５は，竹内信三氏により西側斜面において採集された。先端部を若干欠損するが，長さ5.2cm，幅1.6cm，厚さ0.7cm，重さ5.12gを測る，安山岩製の有茎尖頭器である。両面調整で基部を意識して作出している。著しい二次調整により素材の形状を復元することは困難である。

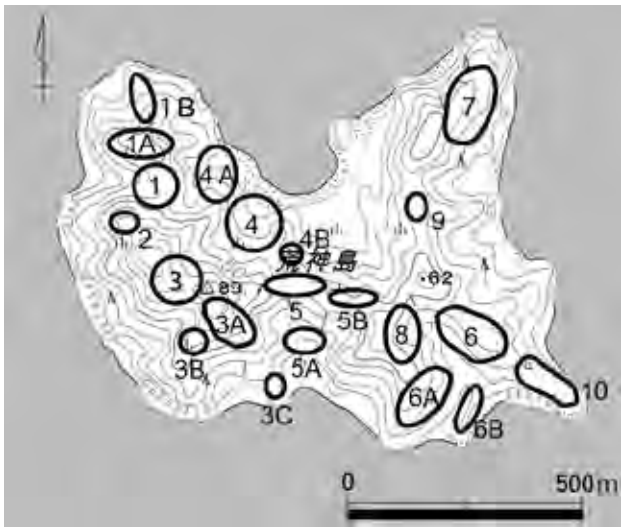
（２）第3A地点

島の最高所よりやや南東に下った斜面に位置する。標高は約75mで，本地点も植生が失われ，表土の流失が著しい。石器は地点全体的に散布が確認できるが，特に北

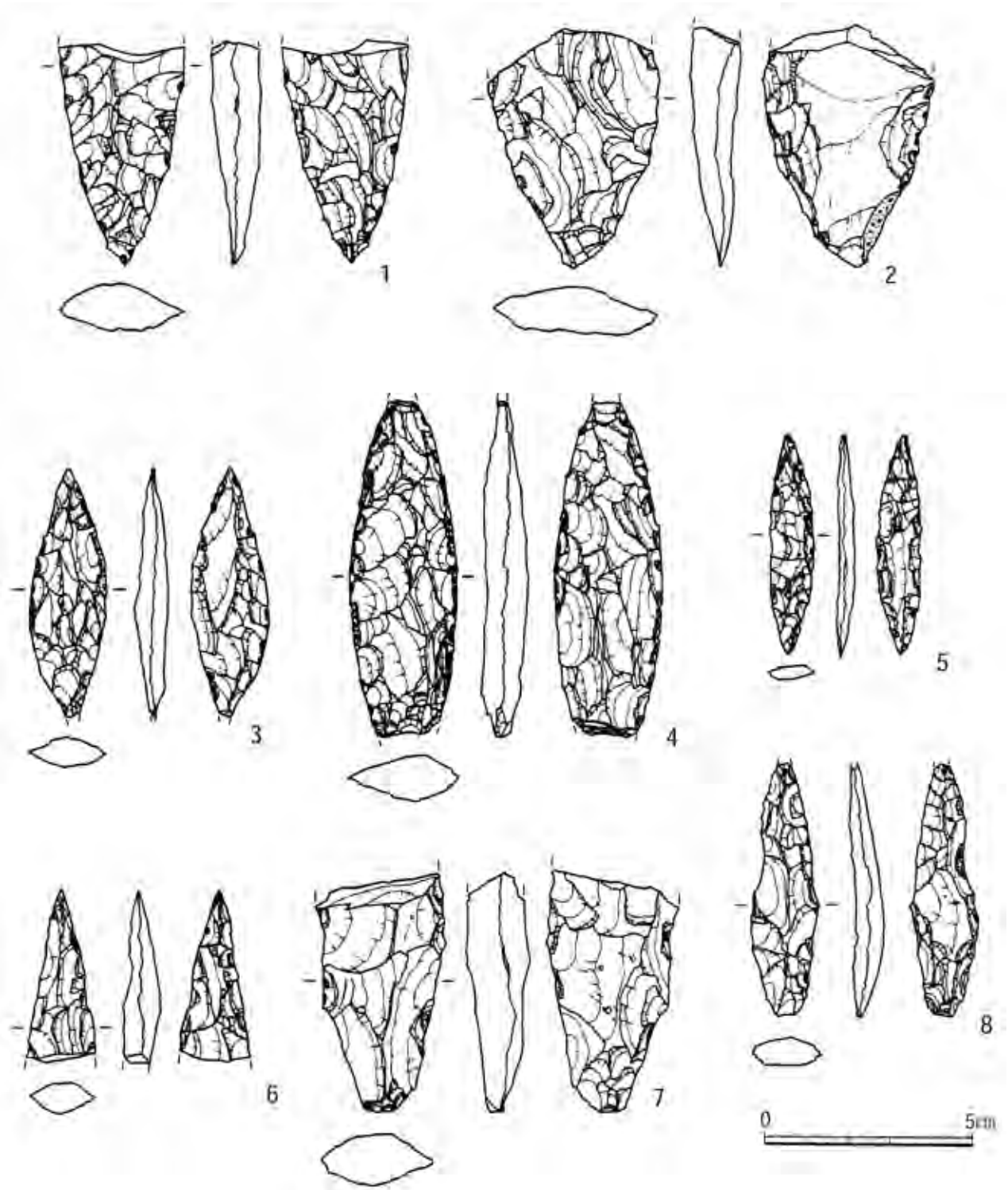
第２図　直島ヘキダム地点位置図（中央★印が採集位置）



第３図　直島ヘキダム地点採集の有茎尖頭器



第４図　荒神島遺跡群位置図（番号は地点に対応）



第５図　荒神島遺跡群3A・4A・５・６・6A・10地点採集の槍先形尖頭器

側に集中して確認された。

・槍先形尖頭器（第５図１・３）

１は上部を折断により欠損しているが，長さ5.3cm，幅3.0cm，厚さ1.1cm，重さ16.06gを測る木葉形尖頭器である。復元長は10cmを超えると思われ，大型品に分類される。石材は安山岩で，肉眼観察ではハリ質に近い比較的良質な石材を使用している。押圧剥離で両面とも入念に調整されており，素材の形状を復元することは困難である。

３は小野　伸氏の採集資料で基部を若干欠損するが，長さ5.9cm，幅1.8cm，厚さ0.8cm，重さ7.25gを測るやや細身の木葉形尖頭器である。安山岩製で風化が著しい。

（３）第4A地点

第１地点を東に下った斜面から，海浜にかけて位置する。標高は約15m～９mで，石器の大半は海浜に転落した状態で確認された。

・槍先形尖頭器（第５図２）

２は海浜で採集された。上部を欠損し全体的に波によるローリングを受けているが，長さ5.7cm，幅4.1cm，厚さ1.1cm，重さ26.82gを測る木葉形尖頭器である。半両面調整で，図で裏面とした側に素材面，右下端に自然面を残す。

（４）第５地点

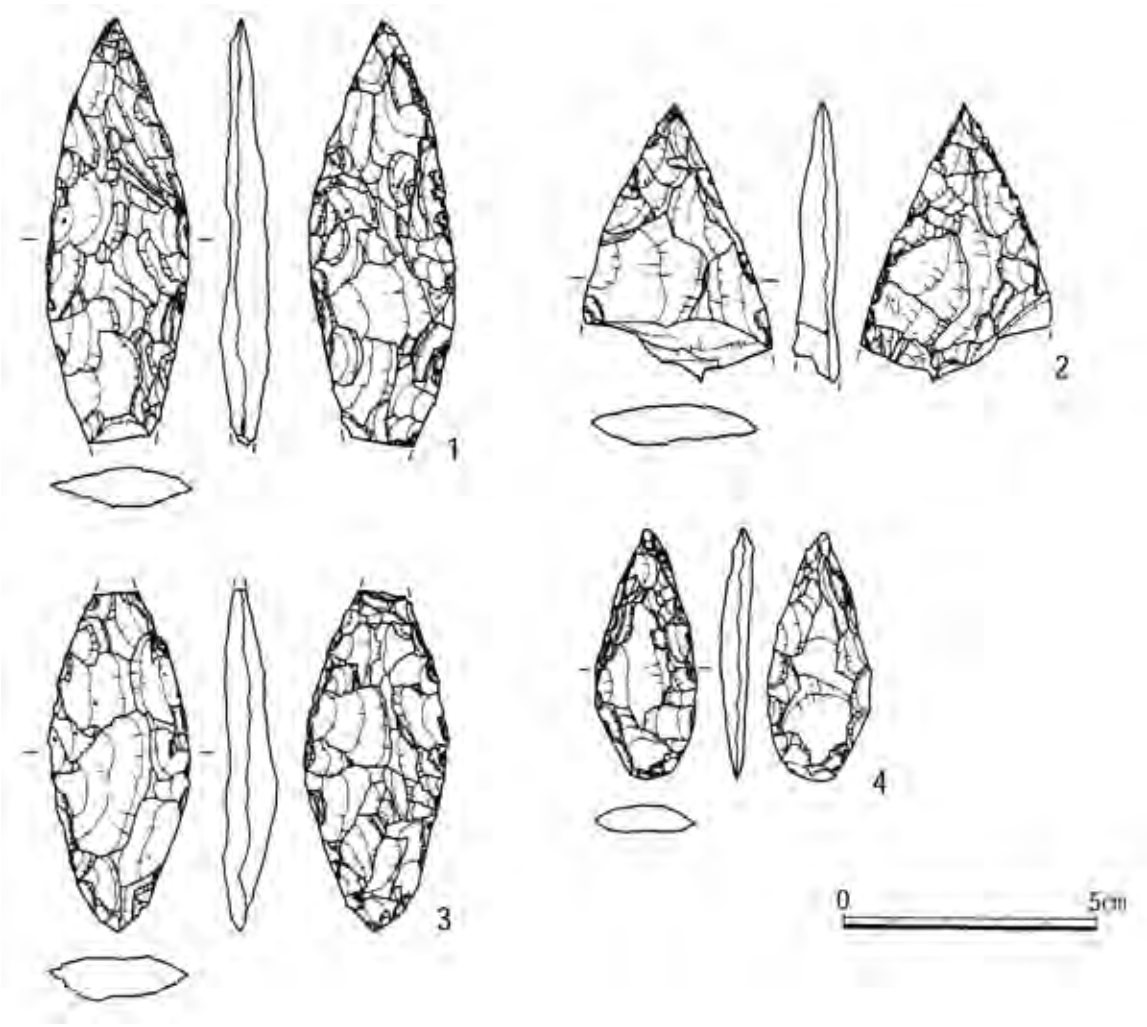
島のほぼ中央の鞍部に位置し，標高は約50mである。本地点も植生が失われ，表土の流失が著しい。石器は鞍部と南北の斜面で確認でき，島内の散布地点の中でも比較的多くの石器散布が確認できた地点である。

・槍先形尖頭器（第５図４）

４は，北側斜面で採集された。先端と基部を欠損するが準完形品で，長さ8.0cm，幅2.6cm，厚さ1.0cm，重さ24.02gを測る，安山岩製の木葉形尖頭器である。図で裏面とした側の中央から上部にかけて同一方向に向かう平坦な剥離面が残り，主要剥離面の可能性が高い。押圧剥離により両面ともに入念な調整がなされている。

（５）第６地点

島の南東に位置し，標高は約30mである。山火事の後



第６図　荒神島遺跡群採集の槍先形尖頭器（採集地点不明）

に行われた植樹により植生が戻りつつある地点で，近年では地表観察が困難になっている。

・槍先形尖頭器（第５図５）

５は小野　伸氏により採集された完形品で，長さ5.2cm，幅1.0cm，厚さ0.4cm，重さ2.23gを測る，安山岩製の柳葉形尖頭器である。小型品で，両面とも入念な調整が施されている。図で裏面とした側に素材面を残す。

（６）第6A地点

島の南側に島内でも広い２箇所の海浜が所在する。この２箇所の海浜との間に，南に突出した台地があるが，その台地の南東側斜面に位置する。標高は約25mである。

・槍先形尖頭器（第５図６・７）

６は柳葉形の尖頭器で，下部を折断により欠損する。長さ4.1cm，幅1.6cm，厚さ0.8cm，重さ4.27gを測る。石材は安山岩で風化が著しい。

７は上部を欠損し調整も粗雑であることから尖頭器未製品と考えられる。長さ5.7cm，幅3.0cm，厚さ1.5cm，重さ26.07gを測り，石材は安山岩である。

（７）第10地点

６地点より尾根に沿って南東に下ると岬がある。二左衛門の鼻と呼ばれている岬で，石器は岬全体に散布が確認された。標高は約10mである。

・槍先形尖頭器（第５図８）

岬の先端で採集した柳葉形尖頭器である。先端部を若干欠損するが，長さ6.1cm，幅1.6cm，厚さ0.8cm，重さ6.72gを測る，安山岩製の準完形品である。図で裏面とした側のほぼ中央に素材面を残す。

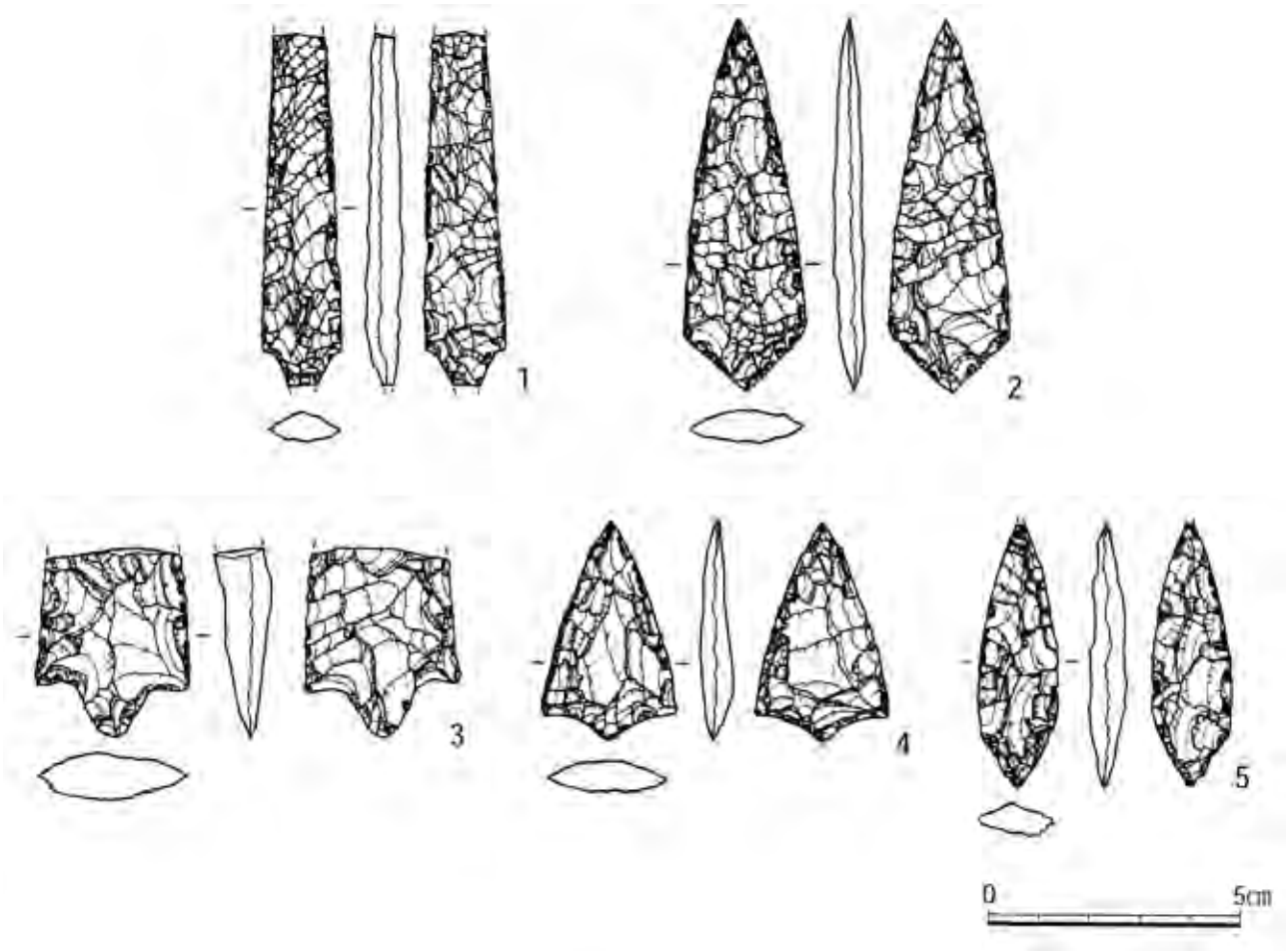
（８）地点不明

1955年から1965年頃にかけて名合照亀，堀内恒彦両氏により個別に採集された資料で，現在は玉野市教育委員会が所蔵している。第６図２は，名合氏の採集資料，他は堀内氏の採集資料である。

・槍先形尖頭器（第６図１～４）

１は，基部を欠損するが，長さ8.4cm，幅2.8cm，厚さ0.8cm，重さ18.56gを測る，安山岩製の木葉形尖頭器である。両面とも著しい二次調整により素材の形状を復元することは困難である。

２は，下部を欠損するが，長さ5.4cm，幅3.8cm，厚さ



第７図　荒神島遺跡群採集の有茎尖頭器

0.75cm，重さ13.76gを測る木葉形尖頭器である。

３は先端を欠損するが，長さ6.7cm，幅2.8cm，厚さ0.8cm，重さ16.35gを測る。石材は安山岩を使用した両面調整の木葉形尖頭器である。

４は長さ4.9cm，幅2.0cm，厚さ0.5cm，重さ5.74gを測る，完形品の安山岩製尖頭器である。小型の木葉形で風化が著しい。

・有茎尖頭器（第７図１～３）

１は先端と基部を欠損するが，長さ7.0cm，幅1.6cm，厚さ0.7cm，重さ9.22gを測る，チャート製[5]の有茎尖頭器である。両面ともに押圧剥離による入念な調整がなされている。

２は長さ7.4cm，幅2.4cm，厚さ0.6cm，重さ9.8gを測る，完形の有茎尖頭器である。石材は安山岩を使用し，両面ともに押圧剥離による入念な調整がなされ，器厚も薄い。基部は明瞭なかえしを作り出さず，ほぼ直線的に作出されている。

３は安山岩製の有茎尖頭器で，上部を折断により失っている。長さ3.7cm，幅3.1cm，厚さ1.2cm，重さ11.8gを測る。基部は一方に若干のえぐりが確認でき，一方は直線的に作出されている。

３．井島遺跡

島の南端に鞍掛鼻と呼ばれる岬がある。これまで旧石器を中心とした遺物が採集され，岬の付け根部から鞍部にあたる１号台地（標高約25～15m）と，先端部の２号台地（標高47.2m）の２地点が知られている。１号台地では，1954・1955年に行われた発掘調査で，旧石器から縄文期の遺物が出土し（鎌木1957），学史的にも著名である。

第８図　井島遺跡位置図

（１　北区　２　中央区　３　南区　４　鞍掛鼻２号台地）

前述したが，井島は2011年の山火事により島の大半が焼失し，遺跡が所在する鞍掛鼻も２号台地がある先端部の一部は焼失を逃れたものの，１号台地についてはほとんどが焼失した。火事以降植生が失われたことと，大雨，台風などで表土が流失し，多くの遺物の散布が確認できるようになった。その火事の後５年が経過した2016年頃から植生が復活し，近年では１号台地，２号台地ともに地表の観察が困難になりつつある。

石器は，１号台地の広範囲で確認できた。表土の流失とともに散布が確認できたことから，１号台地については大きく３つの区域（北・中央・南）に分けて採集を行っている（第８図）。

・槍先形尖頭器（第９図１～６）

１は安山岩製で風化が著しい。両縁に若干の加工を施しており，部分加工の槍先形尖頭器に分類した。長さ4.3cm，幅1.6cm，厚さ0.5cm，重さ3.71gを測り，中央区の採集である。

２は北区採集で，上部を折断により失っているが，長さ4.9cm，幅2.6cm，厚さ1.2cm，重さ12.92gを測る，安山岩製の尖頭器である。

３は上部を折断により失っているが，長さ5.7cm，幅2.1cm，厚さ1.0cm，重さ12.35gを測る木葉形の尖頭器で，両面ともに入念な調整がなされている。中央区の採集である。

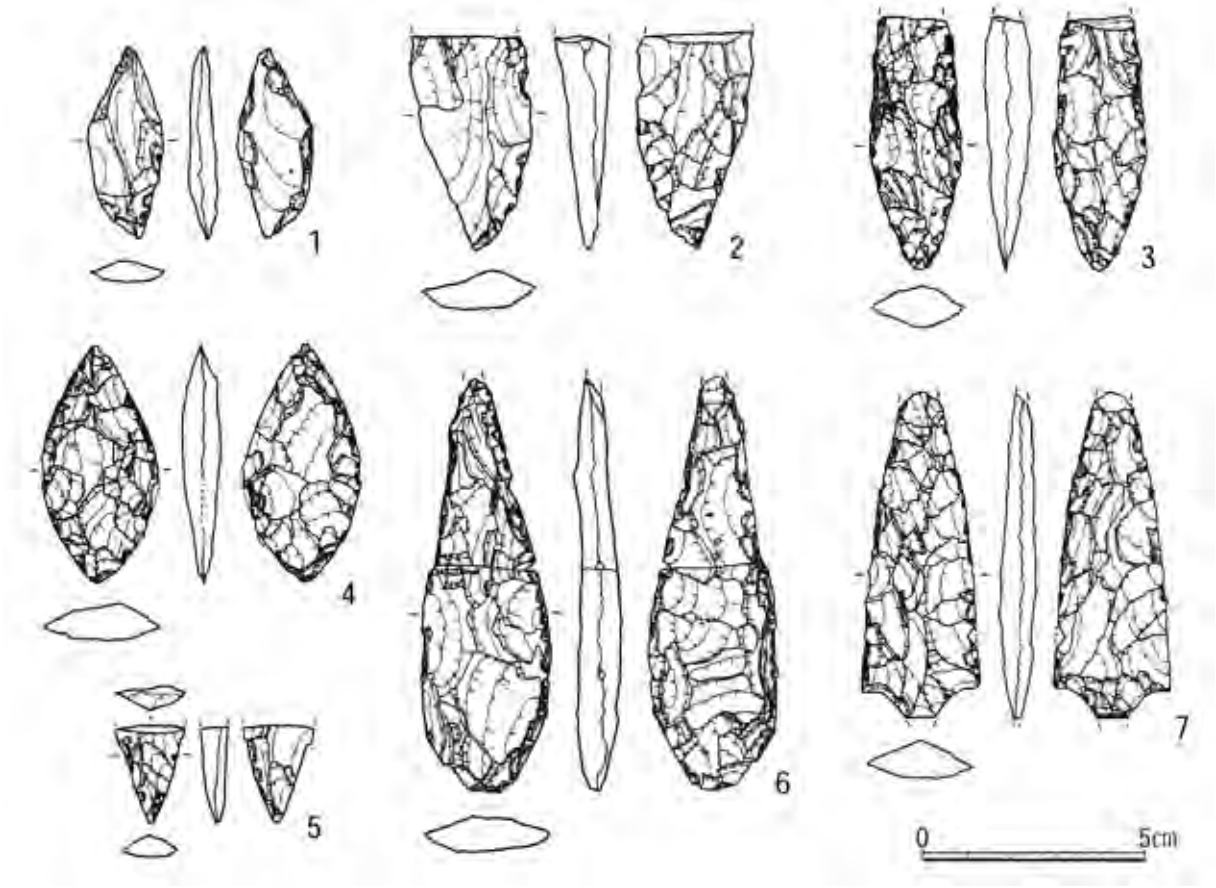
４は南区採集で，長さ5.4cm，幅2.7cm，厚さ0.8cm，重さ10.04gを測り，側縁部を一部欠損するが，ほぼ完形の小型木葉形尖頭器である。腹面に素材面を残し，ハリ質に近い良質な安山岩を使用している。

５は中央区採集で，長さ2.1cm，幅1.6cm，厚さ0.5cm，重さ1.41gを測る。柳葉形，もしくは有茎尖頭器の基部と思われ，石材は安山岩を使用している。

６は先端部を衝撃剥離により失い，ほぼ中央を折断しているが，長さ9.25cm，幅2.9cm，厚さ0.9cm，重さ25.09gを測る，両面加工の木葉形尖頭器である。南区の採集である。

・有茎尖頭器（第９図７）

７は先端部と側縁の一部を新規破損により失い，基部を折断により欠損しているが，長さ7.3cm，幅2.6cm，厚さ0.8cm，重さ14.0gを測る，安山岩製の有茎尖頭器である。基部は深くえぐらないかえしをもつタイプで，両面とも押圧剥離による入念な調整がなされている。中央区に送電用の電柱があるが，その根部で採集した。



第９図　井島遺跡採集の槍先形尖頭器・有茎尖頭器

４．おわりに

直島諸島の内，直島・荒神島・井島の３島において採集された尖頭器を報告した。これらの資料は表面採集資料であることから制約が多く，体系的な研究が進められたとは言い難い。その要因として，発掘調査の事例が少ないことや，検出層準の情報不足が挙げられよう。直島諸島から西に少し離れた塩飽諸島，羽佐島において，瀬戸大橋建設に伴う発掘調査が行われ多量の遺物が出土している。しかし，ここでも層位的な検出が困難で，旧石器とそれ以降の遺物が混在した状態で出土している（渡辺ほか1984；大山ほか1984）。

槍先形尖頭器については，これまで多田仁氏，藤野次史氏により編年がなされており（多田2002；藤野2004），荒神島や井島の槍先形尖頭器についてもこの変遷の中で捉えることができそうである。しかし，当該地域では発掘調査による一括資料も乏しく，一地域として纏めるにあたり問題も指摘されている（藤野2004）ことや，報告した資料は表面採集資料であることから，編年を考えるには不明な要素が多い。

しかし，あえて藤野氏の編年に位置づければ，概ねⅢb期～Ⅴ期の中で捉えることができよう。

当該地域周辺の有茎尖頭器については，これまで立地や形態別の分布傾向が報告されている（多田1997；長井2000；三好2007）。報告した荒神島の有茎尖頭器（第７図１）は，表面形態が細身かつ，かえしを有すタイプで，石材もチャートを使用している。管見では形態的にも当該地域においては類例を見いだせず，新潟県小瀬が沢洞窟（中村1960）等の東日本に類例を求めることができる。有茎尖頭器段階に入ってから，中・四国地方において集団間の交流が盛んになることが指摘されており（三好2007），本資料も少なからず東日本との交流を考えうる一つの資料となろう。また荒神島の有茎尖頭器（第７図４）については，表面形態が類似する資料として近傍では，愛媛県上黒岩遺跡（春成・小林編2009），高知県不動ヶ岩屋洞窟（岡本・片岡1967，1969）等に出土例があり，茎部の作出，茎部長，茎部幅は使用石材に違い等があるが，概ね類似している。

直島ヘキダム地点の資料（第３図）と，荒神島の資料（第７図５）については，表面形態と基部の意識した作出から，本報告では有茎尖頭器に分類したが，他の有

茎尖頭器と比較して著しく細身であり，かえしも有さない。このような形態は，旧石器時代のものとして位置づけられる可能性が指摘されており（三好2007），帰属時期の判断，器種の分類には注意が必要であろう。

以上，採集資料ではあるが，これまで網羅的に報告されることのなかった直島諸島の直島・荒神島・井島の後期旧石器時代から縄文時代草創期に帰属すると考えられる尖頭器について報告した。特に縄文時代草創期に帰属すると考えられる有茎尖頭器の新知見の資料が追加され，当該地域の遺跡分布を検討するうえで基礎資料の一つとなると考える。

瀬戸内海には無人島が多く，未だ確認されていない遺跡も多くあると思われる。今回報告した資料は，山火事や表土の流失により発見されるに至ったが，瀬戸内海の島嶼部全体を見ると禿山化した島も多く，既に包含層が流失し，遺跡自体が消滅した島も多くあると思われ，今後も注意して見守る必要があろう。

謝辞

最後になりましたが，小稿をなすにあたり，岡山理科大学の宮本真二先生には執筆を薦めていただき，大変お世話になりました。玉野市教育委員会の矢野美夏氏，玉野市文化財保護委員の北村　章，林　實両氏には資料を実見する機会を与えていただいたうえ，資料の使用についても快諾を頂いた。また，小野　伸，竹内信三両氏には終始，有益なご指導，ご助言を賜りました。その他にも，執筆にあたり下記の方々，機関より文献や石器の理解等について多大のご教示，ご協力を得た。末筆ながら記して謝意を申し上げたい。大変失礼ながら敬称は省略させていただきました。（五十音順）
井上宗男，岡嶋隆司，遠部　慎，川口武彦，北　浩明，小嶋善邦，白石　純，田代尚利，久富俊治，藤原好二，三好元樹，岡山県立図書館，玉野市教育委員会

註

1）井島には県境が引かれており，岡山県側を石島，香川県側を井島と表記する。
2）文化庁1977『全国遺跡地図　香川県』には鞍掛鼻遺跡とし記載されているが，本稿では報告書記載の名称を使用した。
3）小野　伸氏のご教示による。
4）文化庁1977『全国遺跡地図　香川県』には未登録。
5）岡山理科大学　白石　純氏のご教示による。

引用・参考文献

秋山　忠・渡辺明夫・真鍋昌宏編1984「羽佐島遺跡Ⅰ」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ』，香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団
稲田幸司1969「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』15-３，考古学研究会，3-18頁
氏家敏之2004「四国太平洋沿岸」『中・四国地方旧石器文化の地域性と集団関係』，中・四国旧石器文化談話会，75-84頁
氏家敏之2005「中・四国地方　シンポジウム　ナイフ形石器文化終末期再考－ナイフ形石器文化終末期石器群の変動－資料集成」『石器文化研究』11，石器文化研究会，99-127頁
氏家敏之2008「四国地域の有茎尖頭器－高知県不動ヶ岩屋洞窟出土資料の再検討－」『旧石器考古学』70，旧跡文化談話会，21-30頁
大智淳宏・畑山智史・岡嶋隆司・竹内信三・市村　康・小野　伸・小野　勢・遠部　慎2010「荒神島における先史時代遺跡の保護」『考古学研究会　第56回総会　ポスターセッション資料』，考古学研究会
大山真充・藤好史郎・小西正行編1984「羽佐島遺跡Ⅱ」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』，香川県教育委員会・本州四国連絡橋公団
岡嶋隆司2012「荒神島遺跡群～香川県香川郡直島町～」『アルカ通信』№104，考古学研究所アルカ，3-4頁
岡嶋隆司・竹内信三・西田和浩2003「香川県直島町荒神島遺跡採集の旧石器」『古代吉備』第24集，古代吉備研究会，51-60頁
岡本健児・片岡鷹介1967「高知県不動ガ岩屋洞穴」『日本の洞穴遺跡』，日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会，236-250頁
岡本健児・片岡鷹介1969「高知県不動岩屋洞窟遺跡－第Ⅱ次発掘調査報告－」『考古学集刊』４-３，東京考古学会，15-27頁
小野　伸・白石　純2003「香川県直島町寺島・局島・六郎島採集の旧石器」『岡山理科大学自然科学研究所報告』第29号，岡山理科大学，69-72頁
及川　譲2008「有茎尖頭器石器群をめぐる行動論的研究－複数段階分析枠を利用した領域分析－」『旧石器考古学』70，旧石器文化談話会，1-10頁
遠部　慎・竹内信三2012「直島新発見の押型文土器出土遺跡」『九州縄文時代早期研究ノート』第５号，九州縄文時代早期研究会，46-48頁
鎌木義昌1956「岡山県鷲羽山遺跡調査略報」『石器時代』３，石器時代文化研究会，1-11頁
鎌木義昌1957「香川県井島遺跡－瀬戸内における旧石器文化－」『石器時代』４，石器時代文化研究会，1-11頁
鎌木義昌・高橋　護1965「瀬戸内海地方の先土器時代」『日本の考古学Ⅰ　先土器時代』，河出書房新社，284-302頁
熊谷博志・小野　伸・遠部　慎2008「香川県直島町寺島遺跡（第４地点）の資料」『犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム　第１回研究会・講演会資料集』，犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム，45-47頁
小嶋善邦2008「中国地方における縄文時代草創期遺跡の一様相－岡山県大河内遺跡の発掘調査－」『旧石器考古学』70，旧石器文化談話会，39-42頁
近藤義郎1995「石斧一題」『古代吉備』第17集，古代吉備研究会，5-6頁
三枝健二2014「中部備讃瀬戸採集の旧石器資料」『広島県立歴史博物館研究紀要』第16号，広島県立歴史博物館，1-49頁

白石　純・小林博昭2001「蒜山原東遺跡の発掘調査」『自然科学究所研究報告』27，岡山理科大学，127-154頁
菅　紀浩2019「広島県厳島，多々良潟遺跡採集の有茎尖頭器」『半田山地理考古』第７号，岡山理科大学地理考古学研究会，133-136頁
杉原敏之2008「九州の槍先形尖頭器と有茎尖頭器」『旧石器考古学』70，旧石器文化談話会，31-38頁
鈴木道之助1972「縄文時代草創期初頭の狩猟活動－有舌尖頭器の終焉と石鏃の出現をめぐって－」『考古学ジャーナル』76，ニュー・サイエンス社，25-29頁
竹岡俊樹1988「旧石器時代」『香川県史』第１巻通史編，原始・古代，香川県，72-225頁
竹広文明・丹羽野裕1994「後期旧石器時代の中・四国における地域性」『考古学ジャーナル』370，ニュー・サイエンス社，25-29頁
多田　仁1997「愛媛の有茎尖頭器」『愛媛考古学』14，愛媛考古学会，62-75頁
多田　仁2002「四国の尖頭器」『犬養徹夫先生古稀記念論集　四国とその周辺の考古学』，犬養徹夫先生古稀記念論文集刊行会，67-80頁
中・四国旧石器文化談話会2006「広島県内旧石器時代・縄文時代草創期石器集成」『第23回中・四国旧石器文化談話会発表要旨・資料集』53-133頁
中・四国旧石器文化談話会2018『中・四国地方旧石器時代遺跡集成集』，中・四国旧石器文化談話会
東児町1974『東児町史』，東児町
十亀幸雄1985「上黒岩岩陰遺跡採集の遺物」『遺跡』28，遺跡発行会，73-91頁
直島町2006「～マテリアルの森～直島植樹祭～直島から世界へ～」『広報直島』No.633，直島町
長井謙治2000「愛媛県今治市阿方大池採集の有舌尖頭器」『旧石器考古学』59，旧石器文化談話会，81-86頁
新谷俊典編2003「東遺跡Ⅰ」『蒜山文化財調査報告書Ⅰ』，蒜山教育事務組合教育委員会
根鈴輝雄2004「尖頭器・有茎尖頭器の様相」『中・四国地方旧石器文化の地域性と集団関係』，中・四国旧石器文化談話会，181-187頁
春成秀爾・小林謙一編2009「愛媛県上黒岩遺跡の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第154集，国立歴史民俗博物館
藤野次史2004『日本列島の槍先形尖頭器』，同成社
藤原好二編1995「王子が岳南麓遺跡」『倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告』第４集，倉敷埋蔵文化財センター
藤原好二1996「倉敷市内の有茎尖頭器」『倉敷埋蔵文化財センター年報』３，倉敷埋蔵文化財センター，27-28頁
古瀬清秀・打田知之・八幡浩二2003「瀬戸内海島嶼部及び沿岸部の遺跡踏査－古代海上交通と祭祀に関して－」『内海文化研究紀要』第31号，広島大学大学院文学研究科内海文化研究施設，1-10頁
文化庁1977『全国遺跡地図　香川県』文化庁文化財保護部
間壁忠彦1970「原始」『玉野市史』，玉野市役所，10-42頁
間壁忠彦1981「香川県直島町井島大浦の押型文遺跡」『倉敷考古館研究集報』第16号，倉敷考古館，1-10頁
松本豊胤1974「葛島」『香川県埋蔵文化財調査報告』，香川県教育委員会，11-16頁
松本豊胤1990「遺跡から見た直島の原始・古代」『直島町史』，直島町役場，57-80頁
光石鳴巳2004「湧別技法と集団関係」『中・四国地方旧石器文化の地域性と集団関係』，中・四国旧石器文化談話会，247-258頁
光石鳴巳2005「本州西半部における縄文時代草創期の様相－縄文的狩猟具構成の成立過程に関する研究－」『平成14～16年度科学研究費補助金（若手研究（B））研究成果報告書』
光石鳴巳2008「近畿地方における有茎尖頭器の基礎的研究」『旧石器考古学』70，旧石器文化談話会，11-20頁
三好元樹2007「何がかわったか－中・四国地方の旧石器時代末から縄文時代初頭－」『第24回中・四国旧石器文化談話会　発表要旨・資料集』，中・四国旧石器文化談話会，19-36頁
山本慶一1969「鷲羽山採集の石器と土器」『倉敷考古館研究集報』第６号，倉敷考古館，1-37頁

・図は全て筆者作成。

連絡先
【菅　紀浩　〒711-0904　倉敷市児島唐琴4-11-6
瀬戸内文化財研究会事務局】